

パステルカラーの筆ペン

ペンてる ミルキーインキ搭載 ブラッシュシユ系製品を拡充

ペンてる株式会社(高橋智和社長、東京都)は、5年の歳月をかけて開発した、パステルカラーの筆ペン「ミルキーブラッシュシユ」の発売(9月20日)に先駆けて、9月13日午後1時から、東京・日本橋のKINAGで、プレス向けの体験説明会をリアルとオンラインで開催した。

新発売の「ミルキーブラッシュシユ」は、1996年に発売して人気を博したパステルカラーのボールペン「ハイブリッドミルキー」のインキを搭載した、ブラッシュタイプの新筆。カラー筆の中にも珍しい不透明のパステルカラーで、クラフト紙や濃い色の紙に書いても、インキがしっかりと乗り、キレイに発色する。穂先による表現と重ね塗りが可能なインキにより、何気ない文字やイラストも、明るくかわいい印象を描くことができる。

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス



ラフに描けるミルキーブラッシュ



田島宏部長(左)司会を開発のキーパインとクレストーク

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス

いた。8色展開のラメ筆ペン「デュアルメタリックブラッシュシユ」の発売(2020年)に引き続き、ミルキーインキと筆の組み合わせについて、「インキのカラー力と定着性を技術間のトレードオフを解消するのが難しかった」と開発の苦労を明かした。従来のような企画、デザイン、マーケティングのリレー方式ではなく、企画段階から新しい筆ペンを考えることで、3人でディスカッションを行い、話し合う中で、「いいね」を増やしていった。これまでのような進め方は、自分たちがほしいと思えるものを突き詰めて追求することができた」と振り返った。

使用シーンについては、筆文字を上手に書くのはハードルが高い。筆のタッチとかわ

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス

インクやガラスペン

タケタ事務機が「京都手書道具市」手書きファンが多数来場

株式会社タケタ事務機(田登社長、京都)は、9月9〜11日、京都・烏丸御池の京都文化博物館で開催した「京都手書道具市」を主催し、前売りチケットはほぼ完売の人気で、多数の来場者で賑わった。

第2回目となる今回は、会期を8月から9月1日(土)に延長し、入れ替えを1回増やし、1日3部制での開催とした。

会場には、30社が出展、フームの万年筆インクやガラスペン、万年筆やガラスペンの他に、紙や紙製品、デコレーションに人気のスタンプなど、手書き好きを魅了する個性豊かな商品が並んだ。業界関連ではサンピ、タケタステーションナリー(タケタ事務機)、ナカサワ文具センター、石丸文行堂、文具館コトバヤシなどが出店。

サンピは作家コラボのスタンプやサンカケル商品、万年筆インクの副業スタンプ台、9月1日にマクアケで先行販売を開始した「日めくりクリアスタンプ」/タケタステーションナリーはエンペロー型のメモパッド、なめインクなどの新商品を紹介。ナカサワ文具センター、石丸文行堂、文具館コトバヤシはオリジナルインクや文具を中心に紹介した。

オリジナルポストカードをつくるスタンプラリー(サンピとのコラボ)や文具ガチャ、「京都手書道具市」のイメージビデオを撮影してあしらった京都の貼り箱ブランド「ボックス&ニードル」のオリジナルペンケースなど、イベント限定アイテムなどの企画も好評を博していた。

会場では、人気講師のベチヨリさんとケシア・アンジェリカさんのレタリングやカリグラフィのワークショップも開催された。



出店者との交流を楽しむ来場者

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス

「ハイブリッドミルキー」のインキは、同社が画材や修正液で培った技術を活用して生まれ、発売当時は、黒い紙にも書ける、これまでにないボールペンとして人気となった。30〜40歳代を中心に知名度の高い「ハイブリッドミルキー」のパス



「ハイブリッドミルキー」は、1996年に発売して人気を博した、パステルカラーのボールペン。不透明なパステルカラーのインキを採用したのは、業界で初のこと。黒い紙や写真シールにも書けるボールペンとして、「ミルキーペン」の愛称で小中学生を中心に一大ブームを巻き起こし、販売本数は年間1億本を突破。店頭では一時品薄状態となり、お詫ひ広告を出すという異例の事態も起こった。発売から26年経った現在も、平成時代の文化を象徴するアイテムとして、また、「黒い紙に書けるパステル調インキのペン」の代名詞として、高い認知度を有している。なお、現在は国内での販売は終了している。

「ハイブリッドミルキー」は、1996年に発売して人気を博した、パステルカラーのボールペン。不透明なパステルカラーのインキを採用したのは、業界で初のこと。黒い紙や写真シールにも書けるボールペンとして、「ミルキーペン」の愛称で小中学生を中心に一大ブームを巻き起こし、販売本数は年間1億本を突破。店頭では一時品薄状態となり、お詫ひ広告を出すという異例の事態も起こった。発売から26年経った現在も、平成時代の文化を象徴するアイテムとして、また、「黒い紙に書けるパステル調インキのペン」の代名詞として、高い認知度を有している。なお、現在は国内での販売は終了している。

文具知識能力検定 4月開催予定の本試験に向けて Let's Challenge!

受験料無料 <https://www.bungukentei.jp>

第31回 あなたは全国何位? 全国模擬試験開催中!

パソコンでチャレンジ・スマホでチャレンジどちらもOK!

模擬テストの設問は、期間中、随時追加されます。特に全国ランキングに挑戦している人は、定期的に当サイトのチェックを欠かさないでね!!

検定本No.X(10) 好評発売中!

模擬試験実施期間 2022年9月1日(木) ~ 2022年11月30日(水)

【協賛企業】(株)キングジム、(株)クツワ、(株)コクヨ、(株)ショウワノート、(株)ダイゴ、(株)パイロットコーポレーション、ペンてる(株)、(株)LIHIT LAB. (50音順)

文具知識能力検定共催会社: 紙製品新聞社・全通・文研社・日本文具新聞・メイブ

ネオンオレンジ
ホワイト
ライトグリーン
イエロー
ブラック

リフレクターシール

夜はもちろん、昼間もあらゆる環境下で輝く

反射シール

ヤマト株式会社 〒103-8571 東京都中央区日本橋大伝馬町9-10 <https://www.yamato.co.jp>